



英國戰時財政ノ現在及將來(2)

津村, 秀松

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 21(4):801-824

(Issue Date)

1916-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052597>



英國戰時財政ノ現在及將來 (二)

神戸高等商業學校教授

法學博士 津村秀松

九

ソコデ、此際、英吉利ニ於ケル開戰以後ノ公債増加ノ趨勢ヲ一瞥スル必要ガアル。此點ニ關スル大藏大臣マツケナー McKenna ノ説明ニヨルト、戰前ニ於テ、英吉利ノ公債ハ、官業資金ノ爲メノ起債額五千六百萬磅ヲ除ケバ、總計六億五千一百萬磅デアッタ。ソレガ開戰以後八箇月間ニ、四億五千八百萬磅ヲ増加シテ一昨年度末即チ一九一五年三月末ニハ、總計十一億九百萬磅トナッタ。ソコテ、其ノ利子モ年額約六千萬磅ニ上ルコトニナッタ。又昨年度一九一五年四月乃至一九一六年三月ニ入ツテハ、更ニ十億三千一百萬磅ヲ増加シテ、昨年度末一九一六年三月末ニハ、總計二十一億四千萬磅トナッタ。從テ利子年額モ九千五百萬磅ニ達スルニ至ッタ。茲ニ一寸一言シテ置キタイコトガアル。ソレハ昨年度ノ公債募集額ハ、實ハ合計十三億二千五百七十四萬八千磅ニ上ツタノデアアルガ、此ノ内ニハ、戰前ノ公債ヲ戰時公債ニ切り換ヘタモノモアルシ、又英蘭銀行ヘ返

金ノ爲メノ分モアツタカラ、實際ノ増加額ハ前記ノ如ク、十億三千一百萬磅トナルノデアアル。ソコデ、總計二十一億四千萬磅トイフモノガ、本年度ノ初ニ於ケル英吉利ノ公債ノ現在高トナルノデアアル。尤モ、此内、三億六千八百萬磅更ニ此内ノ三億一千六百萬磅ハ昨年度ノ融通額、聯合國及ビ殖民地ニ對スル融通ノ爲メノ起債デアルカラ、英吉利ノ正味ノ負債ハ、差引剩ストコロノ十七億七千二百萬磅デアルトイフ譯ニナル。

然ラバ、本年度内

一九一六年四月乃至一九一七年三月

ニハ、此公債ガ如何程ニ増加スベキカトイフト、曩キ

ニ述ベタルガ如ク、本年度ノ豫算中、公債支辨ニヨルベキモノガ、十三億磅餘デアアルカラ、本年度末

一九一七年三月末

ニハ、總額約三十四億四千萬磅ニ上ルベキ勘定デアアル。ソコデ

又其ノ利子モ、年額約一億七千三百萬磅トイフ莫大ナル金額ニ達スベキ筈デアアル

尤モ、此内ニハ、ヤハリ聯合國及ビ殖民地ニ對スル融通ノ分モ含ンデ居ルノデアアル

カラ、其ノ累計八億磅ヲ差引クト、英吉利ノ正味ノ負債ガ、殘額二十六億四千萬磅ト

ナルノデアアル。ソレニシテモ、是レ丈ケノ公債ヲ、英吉利ノ人口ニ割當テ、見ルト、平

均一人ニ付キ五十七磅トナルノデアツテ、之ヲ戰前ノ公債ノ割合平均一人ニ付キ

十六磅デアツタニ比スルト、僅カ二年八箇月ノ間ニ、三倍半以上ニ増加スル譯ニナ

ルノデアアル。尙ホ念ノ爲メ、以上述ベタルトコロヲ、表示シテ見ルト、左ノ如キモノト

ナルノデアル。(單位百萬磅)

時 期	公債增加額	公債總額	利子總額	聯合國及殖民地融通額	公債實額
戰 前(一九一四年七月末)		六五一			
一昨年度末(一九一五年三月末)	四五八	一、一〇九	六〇		
昨年度末(一九一六年三月末)	一、〇三一	二、一四〇	九五	三六八	一、七七二
本年度末(一九一七年三月末)	一、三〇〇	三、四四〇	一七三	八〇〇	二、六四〇

一〇

斯クテ、英吉利ハ、本年度内ニ、更ニ約十三億磅ノ公債ヲ募集セ予バナラヌ。ソシテソレハ獨リ本年度ノミデナク、此戰爭ガ尙此儘續イテ行クト、明年度モ、明後年度モ、更ニ同額若クハソレ以上ノ公債ヲ募集シ行カ予バナラヌ勘定デアル。富力世界ニ冠タル英吉利タリトモ、斯カル巨額ノ公債ヲ毎年募集シ得ルデアラウカトイフコトハ、獨逸ノ兵力ト、モニ、此戰爭ノ前途ヲトスルニ最モ有力ナル材料デ、從テ又人々ノ知ラムト欲スルトコロデモアル。之ニ就テハ、カウイフ說ガアル。

英吉利ノ國民所得ハ、戰前ニ於テ、一年ニ約二十四億磅デアツタ。ソシテ、此内コノ約二割ニ當ルトコロノ四億磅餘ハ内外ノ放資其約五分ノ三ハ内國放資ニ供セラレタ。ソ約五分ノ二ハ海外放資ニ供セラレタ。ソコデ、殘リノ二十億磅弱ガ、國民ノ生活費トカ租稅トカ、其ノ他公私ノ用ニ供セラ

レタノデアル。然シ、戰爭トナツテカラ國民ハ、平時ノ如キ所得ヲ見ラレナイデア
ラウト、カウ思ハレルガ、其ノ實、必ズシモサウデナイ。戰時ノ爲メニ所得ヲ減ジタ
方面モ數多イガ、又戰爭ノ爲メニ新ニ所得ヲ増シタ方面モ少クナイ。兵器其ノ他
ノ軍需品ノ製造ニ當ルモノヤ、其ノ外政府ノ御用ヲ勤ムル方面デハ、資本家モ、勞
働者モ、著シク所得ヲ増加シテ居ル。ソコデ、戰時中デモ、英吉利國民ノ年所得ハ恐
ク二十二億磅ヲ下ルマイ。果シテ然リトスレバ、外國放資ヲ禁止セラレタル今日、
其ノ二割ニ當ルトコロノ約四億磅ハ勿論、此際戰費供給ノ爲メニ公私ノ費用ヲ
節約スレバ、更ニ六億磅位ノ應募力ヲ有スルモノデアラウ。ソレデモ、公債募集年
額十三億磅ニ對シ尙ホ差引三億磅ノ不足トナルガ、是レ位ノモノハ假令ヒ不足
トナツテモ、ソレハ信用厚キ英吉利ガ、外債募集ニヨツテモ、將又豫テ所有ノ外國
ノ公債其他ノ有價證券其ノ高戰前約四十億磅ニ達シタヲ賣出スコトニヨツテモ、容易ニ調達シ得ル
トコロデアアル云々

果シテ此ノ如クナルカドウカハ、斷言シ兼ヌルガ、孰レニシテモ、英吉利ノ募債力ニ
ハ、當分尙ホ餘裕ノアルコト丈ケハ、此說ニヨツテ、略ボ首肯スルコトガ出來ル。

ソレニシテモ、公債ガ増加スレバ、ソレ丈ケ、年々ノ利拂モ亦増加スル譯ニナル。之ノ故ニ、英吉利ニ於テハ、本年度モ、戰費支辨ノ爲メニ、斯ク公債ノ増發ヲ計畫セル一方ニ、又租稅ノ増徴ヲモ計ツテ居ルコト、既ニ曩キニ述ベタルガ如クデアル。ソコデ我ガ英吉利デハ、利子ノ支拂ヤ、減債基金ヲ適當ニ補充シ得ル丈ケニ充分ナル租稅收入ノ増加ヲ計ラズシテハ、一磅タリトモ、借金公債募集ノコトヲ爲シタルコトハナイ。之ガ英吉利ノ戰時財政ノ鞏固ナル所以デアツテ、利子ノ支拂ニ充ツル爲メニ借金公債募集ノコトシツ、アル獨逸ノ戰時財政ト天地霄壤ノ差異アルトコロデアル云々ト言ツタマツケナ―藏相ノ言ハ、必ズシモ誇張ノ言デハナイノデアアル。

又獨逸ニ於テハ、帝國ノ分ダケデ、戰前ノ公債ガ約二十五億圓アツタ。本年ノ一日ニハ、之ガ百六十二億圓ニナリ、更ニ本年八月一日ニハ、之ガ二百四十五億圓ニナリ、其ノ利子丈ケデモ、十二億二千五百萬圓ニ上ルベキ筈デアルト稱セラレテ居ル。尙此外ニ、獨逸各邦ノ公債ガ、戰前ニ於テ合計七十五億圓、利子三億圓ニ達シテ居ツタ。今假リニ此分ニハ其ノ後變リガナイトシテモ、本年ノ八月一日ニハ、全體ニ於テ、公債三百二十億圓、利子十五億二千五百萬圓トイフ莫大ナル金高ニナル筈デア
ル。ソコデ、先頃「エコノミスト」ハ、英吉利ノ分ダケヲマツケナ―藏相ノ豫算説明ニヨ

ツテ修正シ、其ノ他ノ國ノ分ヲ、中立國タル彼ノ丁抹ノ戰時經濟調查會ノ、調査ノ結果ニヨルトスルト、大略左ノ如キ、對照ガ現ハレルト言ツテ居ル。

一九一六年八月一日ニ於ケル各國ノ公債及公債利子推定額

國名	公債	公債利子
獨逸	三二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 ^円	一、五二五、〇〇〇、〇〇〇 ^円
佛蘭西	二九、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇、〇〇〇
露西亞	三〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇、〇〇〇
英吉利	二六、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

是レデ觀ルト、各國トモニ、戰費調達ノ爲メニ、莫大ナル公債ヲ募集スルコトニナリ從テ又巨額ナル公債利子ヲ支拂ハテバナラヌコトニナツテ居ルガ、中ニ就テ獨逸ハ其ノ負擔最モ大デアリ、英吉利ハ其ノ負擔最モ小ナルコトヲ知ルノデアル。果シテ斯克ノ如キ割合ニナルカドウカハ、尙ホ一應ノ吟味ヲ要スルガ、何レニシテモ是等主要ナル諸交戰國中今回ノ戰爭ノ爲メニ、戰後、公債ノ負擔ガ比較的ニ最モ大ナルハ獨逸デアリ、比較的ニ最モ小ナルハ、英吉利デアルコトダケハ、殆ンド既定ノ事實デアル。コレハ獨逸ニ於テハ、戰費ノ殆ンド全部ヲ公債ノミニヨツテ支辨シツ、

アルニ對シテ、英吉利ノ方ハ、之ヲ公債ト租稅トノ二途ニヨツテ支辨シツ、アルカラデアル。此後モ兩國トモニ、此方針ヲ改メナイ限リハ、戰後ニ至ツテ、上述ノ如キ結果ヲ見ルハ、當然ノ結果ナノデアル。

一一一

此點ニ就テ、昨今、英吉利ニ於テハ、二種ノ問題ガ研究サレツ、アルカノ如クデアル。戰費支辨ニ就テ、公債ト租稅トノ間ニ如何ナル割合ヲ保タシムベキカトイフ問題ガ、其ノ一ツデアル。戰費支辨ニ就テ、増徴スベキ租稅ノ内、直接稅ト間接稅トノ間ニ如何ナル割合ヲ保タシムベキカトイフ問題ガ、其ノ二デアル。仍テ此ノ二ツノ問題ヲ順次説明シ且ツ批評シテ見ヤウ。

一體、英吉利デハ、如何ナル場合ノ戰爭デモ、其ノ戰費ヲ公債ノ募集ト租稅ノ増徴ノ二途ニヨツテ支辨シ行クトイフガ、年來ノ方針デアツタカノ如クデアル。尤モ其ノ間ノ割合ニ至ツテハ、時ニ消長ヲ免レナカッタガ、何レモ此方針ニ出デナイ場合ハナカッタノデアル。十九世紀以來、英吉利ノ戰爭ヲ點檢シテ見ルト、先ヅ第一ガナポレオン戰爭一七九三年乃至一八一五年デ、英吉利ノ直接戰費八億三千一百萬磅中、租稅其ノ他ノ收入ニヨルモノガ其ノ内ノ四割七分デ、其ノ餘ノ五割三分即チ四億四千萬磅ガ公債

ノ募集ニヨツテ支辨シタノデアル。第二ガクリミヤ戰爭一八五四年乃至一八五六年デ、戰費六千七百五十萬磅ノ内、租稅其ノ他ノ收入ニヨルモノ五割二分五厘、殘額四割七分五厘即チ三千二百萬磅ガ公債支辨ニヨツタノデアツタ。第三ハ南阿戰爭一八九九年乃至一九〇二年デ、戰費二億一千一百萬磅ノ内、租稅其ノ他ノ收入ニヨルモノ三割二分、他ノ六割八分即チ一億四千三百萬磅ハ公債ニヨツテ支辨シタノデアル。

然ラバ、今回ノ戰爭ニ於テ、英吉利ハ如何ナル割合ヲ是等兩者ノ間ニ保タシメツ、アルカトイフニ、既往三回ノ戰爭ニ比シテハ、公債ノ募集ニ賴ルトコロ甚ダ多ク、租稅其ノ他ノ收入ニ依ルトコロ甚ダ少イ。新ニ租稅ヲ増徴スルニ至ツタ本年度ノ豫算ニ於テスラ、前述ノ如ク、歲出總額十六億二千五百萬磅ノ内ノ直接戰費豫算陸海軍費及ビ軍需省費其他ノ雜費合計十一億五千萬磅ニ對シ、租稅收入ニヨルモノ約三億磅(註三)デ、殘リノ八億五千萬磅ハ公債其ノ他ノ借入金ニ依ラチバナラヌトイフ譯ニナツテ居ル。即チ戰費支出ニ就テノ租稅ト公債トノ割合ガ二割六分ト七割四分トノ割合デアル。之レデハ南阿戰爭ヤ、クリミヤ戰爭ヤナボレオン戰爭ノ場合ニ比スルト、公債支辨ノ高ガ甚ダ多ク、租稅支辨ノ高ガ甚ダ少イトイフ譯ニナル。

註三

マリガットハ、英吉利ノ直接戰費ノ内、租稅收入ニヨルモノ二億磅ト概算シテ居ルガ(Marriott, War Finance, 1914, Chap. 10)。

ing & After, May 1916, P.P. 1132-1133). 戦前ノ租稅收入ガ約二億磅デ、現在ノ租稅收入ガ約五億磅デアルカラ、差引三億磅ヲ以テ、此戰爭ノ爲メニ増加シタ租稅收入ト見做スベキデ、從テ又之ヲ以テ戰費ニ對スル租稅支辨ノ高ト考フベキダト思フ。

一三

勿論戰費ノ内、幾分ヲ公債支辨トシ、幾分ヲ租稅負擔トスベキカハ、時ト場合ニヨルベキモノデアツテ、決シテ一定不變ノ標準アルベキ筈ガナイ。又割合ハ如何様ニアツテモ、公債ノ種類ナリ、租稅ノ性質ニヨツテ、良否ガ分レテクル。殊ニ是レマデノ戰爭ト違ツテ、今回ノ如キ空前ノ大戰争ニアツテハ、既往ハ何等ノ標準トナラナイノデアル。佛蘭西デモ、露西亞デモ、將又獨逸デスラモ、戰費ノ殆ンド全部ヲ公債ノ募集ト、中央銀行カラノ借上金トニヨツテ遣繰リシツ、アル中デ、獨リ英吉利ノミハ當初カラ公債ノ募集ト租稅ノ増徴トヲ常ニ平行セシメテ、利子ノ支拂ヤ、減債基金ヲ適當ニ補充シ得ル丈ケニ充分ナル租稅收入ノ増加ヲ計ラズシテハ、一磅タリトモ、借金ヲシナイトイフ戰時財政ヲ維持スルコトハ、確ニ英吉利ノ財政ノ強味デアツテ、又イツマデ此方針ヲ維持シ得ルトイフ英吉利ノ經濟狀態ハ、他ノ羨望ニ堪ヘザルトコロデモアル。

去ル三月末、藏相マツケナーハ本年度ノ豫算ヲ提出スルニ方リ、下院ニ於テ述ベ

テ言フニハ、

私ハ此戰爭デ、英國々民ノ租稅負擔力ノ偉大ナルコトト、之ヲ甘受スル國民的精神ノ偉大ナルコトトニ驚キ且ツ感謝スルモノデアアル。我英國ハ、既ニ此戰爭ノ爲メニ、合計約三億磅ノ新稅ヲ起シタノデアアル。然ルニ敵國獨逸デハ、藏相ヘルフエリツヒ K. Helfferich ガ僅カ二千四百萬磅ノ新稅ヲ起スコトスラ甚ダ困難デアルト歎ジテ居ルデハナイカ。ソレニ付ケテモ、私ハ[文事上ノ勇氣] Civic Courage ナルモノガ[武事上ノ勇氣] Military Courage ト同様ニ、重要ナルモノデアアルコトヲ、切實ニ感ゼザルヲ得ナイノデアアル云々

ト。戰時財政上ニ於ケル英獨ノ現狀ハ、マツケナラシテ此言アラシムルヲ至當トスルノデアアル。尤モ、此點ダケガ現時ノ戰爭ニ於ケル英吉利ノ唯一ノ強味デアアル。私ガ嘗テ今回ノ戰爭ヲ評シテ、此戰爭ハ必ズシモ[正義] Right ト[暴力] Might トノ戰爭デナク、又此戰爭ハ必ズシモ[軍國主義] Militarism ト[自由主義] Liberalism トノ戰デモナク、實ハ英吉利ノ[金力]ト獨逸ノ[人力]トノ戰デアルト言ツタノハ、幾分此意味カラモ來テ居ルノデアアル。ソコデ、私ハ今モ尙ホ此戰爭ガ同盟軍ノ勝利ニ歸シタナラバ、ソレハ獨逸ノ[人力]ノ勝利デアツテ、若シ又聯合軍ノ勝利ニ歸シタナラバ、ソレハ、正シク英

吉利ノ「金力」ガ勝ツタノダト評スベキデアルト思フ。

一四

一體、英吉利ノ本年度ノ收入ハ、曩ニ述ベタ通り、租税其ノ他ノ收入ガ五億二百萬磅ト、外ニ前年度ニ於テ先取トナツタ分ガ約七百萬磅ト、合計五億九百萬磅アル可キ筈デアアル。ダガ、此内八千六百萬磅ハ超過利益税ヤ、軍需品税 *Munition Levy* カラノ收入デ、ソシテソレハ固ヨリ戰時中トイフ一時限リノモノデアアルカラ、之ヲ差引クト殘額四億二千三百萬磅ダケガ永久性ノ收入トナルノデアアル。即チ之レ丈ケハ、現在ノ租税制度ヲ其儘維持スル限リハ、假令ヒ戰後ニナツテモ、永久ニ收メ得ベキ收入デアアル。而シテ一方歲出ノ方面ヲ見ルト、戰前ノ歲出ハ、公債ノ利子ヲ除ケバ、總計一億七千三百萬磅デアツタ。ソコデ、假リニ此戰爭ガ本年度末マデニ終末ヲ告ゲルトシ、且ツ其ノ後デアアルトコロノ戰後トイフ平時ニナツテノ普通ノ歲出ガ、大體、前記ノ戰前ノ歲出ニ異ラナイモノダトスルト、之ニ此戰爭ノ爲メニ膨脹シ來ツタ公債ノ利子金額一億四千五百萬磅(註四)ト、恩給年金ノ推定額二千萬磅トヲ加ヘタル總計三億三千八百萬磅ガ、戰後ノ歲出デアルト見做シ得ル。ソコデ、現在ノ租税制度ヲ維持スル限リ、戰後ニ於テモ當然收入シ得ベキ前記ノ歲入四億二千三百萬磅ノ内

カラ、此歳出總計三億三千八百萬磅ヲ支出シテモ、尙ホ剩ストコロ八千五百萬磅トナルノデアル。此剩餘ダケハ、戰後毎年公債ノ償却ニ充ツルカ、左ナクバ、之ヲ以テ戰時ニ増徴シタル租稅ヲ輕減シ得ベキモノトナルノデアル。是ニ由テ之ヲ觀ルト、今ヤ英吉利ノ戰時財政ハ、一方ニ於テ、公債ノ募集ニ依ルトコロ益々大ナルモノアルニ拘ラズ、之ト同時ニ他方ニ於テ、之ニ伴フ増稅計畫ヲ爲ス、ニ怠ラナカツタ爲メニマツケナリノ所謂「大ナル準備」(Great reserve)ノ上ニ立ツモノト謂フベキデアル。

註四 英吉利ニ於テハ、本年度末ノ公債總額ガ三十四億四千萬磅デアルコト、及其内カラ、聯合國及ビ殖民地ニ對スル融通額總計八億磅ヲ差引クト、本年度末ニ於テ英吉利ノ負擔ニ歸スベキ公債ガ二十六億四千萬磅ニナルコトヲ臆ニ述ベタ。本年度一バイニ此戰爭ガ濟ムトスルト、戰後ノ英吉利ノ公債負擔額ガ此ノ二十六億四千萬磅トナル勘定デアル。ソコテソレニ對シテ戰後年々支拂フベキ利子ガ、如何ホドニナルカトイフト、マツケナリ藏相ハ、去ル四月上旬下院ニ於テノ豫算説明ノ演說ノ内デ、戰後、充分ナル減債基金ヲ置クトスルト、此高ガ大約一億四千五百萬磅位デアラウト述ベタ。

然シ又斯ク無暗ニ巨額ノ剩餘ヲ未來ニ殘ストイフコトニ就テハ、大分異論モアル。トイフノハ、一體斯カル巨額ノ剩餘ヲ戰後ニ殘ストコロノ戰時財政ヲ見ルニ至ツタノハ、確實ハ確實ダガ、之レハ無暗ニ豫算ヲ膨脹セシメテ、遂ニ本年度ハ四億二千三百萬磅、來年度ニハ恐ク四億五千萬磅以上ニモ上ルベキ租稅收入ナドヲ計ツタカラデアル。現在ノ必要カライヘバ、今少シ増稅ヲ手控ヘテ、然ルベキデアル。例令ハ増稅計畫ヲ四億ニ留メテ置イテ、不足五千萬磅ヲ公債ニヨルトスレバ、戰後數年

間毎年ノ利子ノ負擔三百萬磅ノ増加デ濟ム譯ノモノデアル。藏相マツケナーガ斯カル方策ニ出デナカツタ理由ハ、英國ノ戰時財政ノ基礎極テ鞏固ナルコトヲ中外ニ示サウ爲メデアラウガ、ソレガ爲メニ、必要以上ニ國民ノ收入ヲ犠牲ニ供シツ、アルニ至ツタモノダトイフ批難ヲ免レナイトイフノデアル。

一五

成程之モ一理アル申分デアル。ダガ、戰後ニ八千五百萬磅ノ剩餘ヲ生ズルトイフノハ、戰後ノ公債ノ利子ヲ一億四千五百萬磅ト見積リ、又恩給年金ヲ二千萬磅ト見做シテノ剩餘デアルカラ、之ハ假リニ此戰爭ガ本年度一バイデ終結ヲ告グルトシテノ豫算ニ過ギナイ。然シ事實ハ今ノトコロ決シテ平和克復期ヲ豫定スルヲ許サナイノデアルカラ、此先キ戰爭ガ尙ホ永ク續クモノトシテ、戰後ノ計ヲ立テ、置クコトハ、英吉利ノ唯一ノ頼ミデアリ、又力デモアルトコロノ財政ノ信用ヲ中外ニ維持スルニ必要ナル方策ト謂ハチバナラス。又ヨシ此戰爭ガ間モナク終結ヲ告グルコトガアツテモ、ソシテ其ノ結果、戰後ノ英吉利ノ財政ニ八千五百萬磅ノ剩餘ヲ生ズルコト、ナツテモ、ソレハ現在ノ租稅制度ヲ此儘維持スルトシテノ剩餘デアルカラ、其時ニハ、此剩餘ヲ以テ、直チニ相當ノ減稅又ハ廢稅ヲ爲シテモ、決シテ遅クハ

ナイノデアル。

シテ見ルト、此種ノ議論ハ、結局、戰費ヲ現代人ノ負擔トナルベキ租税ニヨルベキカ、將又將來ノ國民ノ負擔トナルベキ公債ニヨルベキデアルカ、少クトモ、何レニ重キヲ措クベキデアルカ、其ノ間ノ割合ヲ如何ニ定ムベキカトイフ問題ニ歸着スルノデアル。英國ダケデモ、此後ハ一日ニ五百萬磅ニ近キ巨費ヲ要スル今回ノ戰爭ノ如キニ於テハ、到底之ヲ租税ニヨツテ支辨シ得ルモノデナク、主トシテ公債ニ依頼スル外ナイコトハ、更ニ説明ヲ要セヌ。然シ又是レ丈ケノ巨費ヲ散ズル戰爭デアツテ見レバ、此戰爭ニ際シ、國民ノ義務トシテ、自己ノ生命、一家ノ幸福ヲ、國家ノ爲メニ犠牲ニ供シツ、アル者多キ一方ニ、又斯カル國家ノ運命ヲ決スベキ戰爭ニ際シ、直接何等ノ犠牲ヲ拂ハナイノミカ、却テ此戰爭ニヨツテ巨利ヲ博シツ、アル社會及ビ意外ナル收入ヲ得ツ、アル人々モ少ナカラズ存スル譯デアルカラ、是等ノ社會又ハ是等ノ人々ヨリ、其ノ利益又ハ收入ノ一部ヲ戰費トシテ上納セシムルノ工夫ヲナスコトハ、負擔ノ公平ヲ得ルトイフ上カラ言ツテモ、至當ナル處置ト申サチバナラス。況ンヤ之ヲ過去ニ於ケル英吉利ノ諸戰爭ノ場合ニ比シ、戰費ニ對スル租税ノ負擔ノ割合ガ、尙ホ遙カニ輕キモノデアルコト、曩キニ述べタルガ如キモノアル

ニ於テヲヤ。然シソレモ租稅其ノ物ノ性質ガ宜シクナイト、更ニ異論ヲ生ゼシムベキ餘地アルノデアルカラ、次ギニハ、今回ノ戰爭ニ於ケル増稅ノ性質ニ就テ研究ヲナサテバナラス。

一六

此點ニ就テハ、マリオット *Marriott* ノ「戰時財政」*War Finance* ト題スル論文 (*Nineteenth Century and after*, 1916 May, P. 1134) ノ内ニ「一八一四年ノサーロバート・スール *Sir Robert Peel* ノ財政改革以來、本年度ノ豫算ニ至ルマデノ英吉利ノ各種租稅ノ收入ヲ直接稅ト間接稅トニ分ツテ、其ノ割合ノ變遷ヲ表示シタモノガアル。試ニ之ヲ掲ゲテ見ルト、左ノ如キモノデアル。

年 度	間接稅	直接稅	年 度	間接稅	直接稅
一八四一	七三・〇	二七・〇	一九〇三	五〇・七	四九・三
一八五一	六七・〇	三三・〇	一九〇四	五〇・五	四九・五
一八六一	六二・〇	三八・〇	一九〇五	四九・七	五〇・三
一八七一	六一・〇	三九・〇	一九〇六	四八・六	五一・四
一八八一	六〇・〇	四〇・〇	一九〇七	四八・九	五一・一
一八九一	五五・七	四四・三	一九〇八	四七・四	五二・六
一九〇一	五〇・六	四九・四	一九〇九	四三・六	五六・四
一九一〇	四七・五	五二・五	一九一〇	四二・七	五七・三
一九二〇	四七・六	五二・四			

一九二二—二三	四二・四	五七・六	一九一五—一六	三五・四	六四・六
一九二三—二四	四二・四	五七・六	一九一六—一七	二八・〇	七二・〇
一九二四—二五	四〇・〇	六〇・〇			

備考 本表ノ内、一八九一年乃至一九二一—三年マデノ數字ハ Bernard Maliet, British Budgets, 1887—1913 ニヨリタルモノデアル。

此表ヲ見ルト、マリオットモ言フテ居ル通り、英吉利ニ於テハ、(一)過去四分ノ三世紀ノ間ニ、直接税ト間接税ノ割合ガ、全ク轉倒スルニ至ツタコト、(二)此間此變化ガ年々絶間ナク略ボ同一ノ割合ヲ以テ進行シ來ツタコト、(三)從テ又此間ニ於ケル此變化ガ極テ徐々ニ行ハレタルコトノ三大事實ヲ發見スルノデアル。

尤モ、何ヲ直接税トイヒ、何ヲ間接税ト名クベキカ、抑モ又直接税間接税ノ區別ヲ明定シ得ベキカニ就テハ、夙ニ財政學上議論ノ存スルコロデアルガ、上表ハ總テ從來慣用ノ直接税及ビ間接税ノ意義ヲ標準ニ、其ノ間ノ割合ヲ算定シタモノデア。ル。シテ見ルト、此間ヨリ生ズル前記ノ三大事實ハ、期セズシテ、英吉利ノ租税制度ガ、次第ニ民主々義化シツ、アルモノナルコトヲ示スト同時ニ、此在來ノ傾向ヲ、今回ノ戰爭ニ際スル戰費支出ノ爲メノ増税ニヨツテ、一層著シカラシムルニ至ツタコトヲモ示スモノデア。ル。最モ、此表ノ内、一九一六年乃至一九一七年ノ分ニハ、戰時利益税ヲ直接税ノ内ニ加算シテ居ルガ、之ハ戰時中ダケノモノデア。ルカラ、假リニ之

ヲ除クトスルモ、尙ホ同年度ニ於ケル間接稅ト直接稅トノ割合ガ三割七分ト六割三分ニナル。然シ、ソレハ全體ノ恒久的傾向ヲ示ス上ニ必要ナル除外タルニ過ギナイノデアル。

一七

何レニモセヨ、此戰爭ノ爲メニ新ニ生ジタル増稅ノ割合ガ、所得稅トカ、超過所得稅トカ、戰時利益稅トカ、又ハ自動車稅トカイフヤウナ、直接稅ニ多カツタガ爲メニ、直接稅ト間接稅トノ割合ニ斯ク激變ヲ見ルニ至ツタコトハ、増稅ニヨル戰費ノ負擔ガ、主トシテ有資產者階級ノ肩上ニ課セラレタルモノデアルコトヲ示シテ餘リアルモノデアル。又關稅及ビ其他ノ消費稅ノ如キ間接稅ノ増徴ニシテモ、ソレハ娛樂品又ハ奢侈品ニ對スルモノガ多イノデアルカラ、是レ又何レカトイヘバ、有資產者階級ニ於ケル娛樂費又ハ奢侈費ヲ戰費ニ轉ゼシメタ部分ガ多キヲ占ムルノデアル。斯様ナ譯デアルカラ、英吉利ニ於テハ、今日マデ租稅收入ノ内カラ支出シタ戰費ハ約三億磅以上ニ上ルガ、之ハ戰費ヲ一切公債デ支辨シタ場合ニ比スルト、内外ニ於ケル戰時財政ノ信用ヲ厚カラシムル所以デアリ、又戰後ニ於ケル英吉利ノ財政ノ利子ノ負擔ヲ非常ニ輕減シ得ル所以デモアルト同時ニ、戰費支辨ノ爲メニ新

ニ制定シタ租稅ガ主トシテ有資産者階級カラ徵收スルモノデアルカラ之ハ未ダ斯國民ノ生計費ヲ侵シタモノトハ申サレナイ。

本年度ニ於テ斷行セラレタ租稅ノ増徴ヲ見ルト、一層能ク此種ノ傾向ガ現ハレテキル。本年度ノ新稅及ビ増稅ノ收入ガ總計七千三百萬磅デアル。此内五千四百五十萬磅ガ直接稅デ、殘リノ一千八百五十萬磅ガ間接稅デアル。即チ新ニ徵收スルニ至ツタ租稅ノ七割五分ガ直接稅デ、二割五分ガ間接稅デアル。超過利益稅ノ增收一千一百萬磅ヲ除イテモ、尙ホ直接稅四千三百五十萬磅ニ對シテ間接稅一千八百五十萬磅デアル。之ハ正シク所得稅納稅者ガ新永久稅ノ約三分ノ二ヲ負擔スルモノデアルコトヲ示スモノデアル。

一八

ソレニ就ケテモ、私ハ此戰爭ニヨツテ、今更ラナガラ、英吉利ノ有資産者階級ノ租稅負擔力ノ絶大ナルニ驚クモノデアル。又是等英吉利ノ有資産者階級ガ租稅負擔力ニ於テ絶大ナルモノアルニモセヨ、租稅ニヨル戰費ノ大部分ヲ、此種ノ階級ニ轉嫁スルニ躊躇シナイ英吉利ノ政治家ノ盛シナル勇氣ト、之ガ負擔ヲ甘ズル英吉利ノ資産家ノ盛シナル愛國心トニハ、ホト／＼感服セザルヲ得ナイ。

一體英吉利デハ、戦争ノ場合ニ、戦費支辨ノ第一ノ財源トシテ、所得税ノ増徴ヲ見ルノハ殆ンド其ノ常例トスルトコロデ、決シテ怪ムニ足リナイコトダガ、今回ノ戦争ニ於テハ、特ニソレガ激シク行ハレルヤウデアル。即チ戦前ニ於ケル英吉利ノ所得税ノ標準税率^{即チ最高税率}ハ、所得額一磅ニ付キ一志三片デアッタモノガ、一昨年十一月ノ第一次増税ニ於テ二志六片トナリ、昨年九月ノ第二次増税ニ際シテ三志六片トナリ、更ニ今回ノ第三次増税ニ於テ一躍五志ニ飛ビ上ツタノデアル。一八五四年乃至五六年ノクリミヤ戦争ノトキニハ、戦前一磅ニ付キ七片デアッタモノガ、戦争トナツテカラ、一八五四年ニハ一志二片トナリ、五五年ニハ一志四片トマデ上ツタノデ、又一八九九年乃至一九〇二年ノ南阿戦争ニハ、戦前一磅ニ付キ八片ノ割合デアツタモノガ、戦争トナツテカラ、一九〇〇年ニハ一志トナリ、一九〇一年ニハ一志二片ニ引上ゲラレタノデアツタ。其ノ後一九〇五—六年即チ保守黨ガ自由黨ニ天下ヲ譲リ渡シタ時ニハ一磅ニ付キ一志ニ過ギナカツタモノガ、今日ハ既ニ一磅ニ付キ五志トナツタトスルト、クリミヤ戦争當時ニ比シテハ約四倍デアリ、南阿戦争當時ニ比シテハ四倍以上デアリ、自由黨内閣成立ノ當初ニ比シテハ寸度五倍トナツテキルノデアル。且ツ夫レ、所得額一磅ニ付キ五志トイヘバ、今ヤ英吉利ノ富豪ハ其ノ所得ノ四分ノ一即チ二割五分ヲ上納セチバナラヌ境遇ニアルモノデアル。而モ

是等ノ富豪ニハ、前記ノ普通ノ所得稅ノ外ニ、超過所得稅トイフ特別稅ガ加ハツテクル。此方ハ、今回ノ増稅計畫ニ方ツテ、稅率ニ變化ハナカツタガ、課稅ノ起點ニ於テ、自然ノ變化ヲ見タカラ、超過所得稅ヲ拂ハチバナラヌ富豪ノ連中ニハ、彼レ是レ相合シテ、事實其ノ所得額一磅ニ付キ八志ノ稅率トナル譯デアル。即チ所得ノ四分ノ一ヲ上納スルノデナクテ、所得ノ五分ノ二即チ四割ヲ上納セチバナラヌトイフ有様ニナツタノデアル。是レマデハ、英吉利ニ取ツテ最大ノ戰爭デアツタト稱セラレテ居ツタ彼ノナポレオン戰爭ノトキニビツトハ、戰費調達ノ爲メ、次第ニ所得稅ヲ増徴シテ、遂ニ所得ニ對スル二割五分乃至三割マデノ高率ヲ課スルニ至ツタノデアルガ、今ハ其ノ「レコード」ヲモ越エテ、所得ノ四割ヲ徵收スルトイフ「新レコード」ヲ造ルニ至ツタ。

トコロガ、英吉利ノ富豪家ノ戰時稅ノ負擔ハ、マダ是レ丈ケデハナイ。曩ニ述ベタ通り、今回ノ増稅計畫ニ伴フテ超過利益稅ナルモノガ、五割カラ六割ニ引上ゲラレタ。ソコデ、藏相マツケナーモ此春ノ豫算説明ノ演說中デ言フテ居ル通り、所得稅ト超過所得稅ト超過利益稅ト、此三種ノ稅金ヲ合算スルト、今ヤ此國ニ於ケル第一流ノ富豪ハ、其ノ戰時ニ於ケル超過利益ノ七割七分以上ヲ奪ハレル勘定ニナツタ。英吉利ノ上流社會ガ、斯様ナ重キ負擔ヲ課セラレテモ、毫モ不平ヲ言ハズ、又誰レシモ

媾和ヲ唱へ出サナイノハ、此戰爭ノ勝敗ハ、全ク英吉利ノ金力が繼クカ繼カヌカトイフ一點ニ懸テ存スルトイフコトヲ充分ニ悟ルニ至ツタト同時ニ、何ントシテモ、此戰爭ニ勝タナイデハ、英吉利ノ過去ノ繁榮ヲ將來ニ維持スルコトスラ六ヶ敷イトイフ確固タル國民的自覺ガ存スルガ爲メデアル。ソレニシテモ、上流社會ガ斯様な態度デアリ、又斯様な覺悟デアル其ノ一方ニ、勞働者仲間デハ、此戰爭中ニモ拘ラズ、屢々同盟罷工ヲ敢テシタコトヤ、又下層社會ニハ却テ平和說ガ歡迎セラル、トイフヤウナ事實ヲ、彼レ是レ對照スルト、英吉利ノ愛國心——ソレハ頑迷ナ愛國心若クバ利己ニ伴フ愛國心デアルニセヨ——英吉利ノ愛國心ノ中心ハ、社會ノ下層ニアルニアラズシテ、社會ノ上層ニアルデアアル「ジョンブル」ハ今モ尙ホ英吉利ノ貴族ノ間ニ於テノミ之ヲ發見シ得ルノデアルトイフコトハ、必ズシモ僞デナイ如クデアアル。

一九

然シナガラ、又翻テ考フルニ、今ヤ英吉利ノ資本家ハ、既ニ其ノ所得ノ五分ノ二ヲ徵收サレツ、アルモノデアアル。戰爭ニ關スル御用ヲ勤メテ居ル連中デハ、其ノ所謂超過利益ノ七割七分以上マデヲモ奪ハレツ、アルモノデアアル。藏相マツケナーノ話デハ、ソレドコロヂヤナイ、尙ホ進ンデ八割若クハ九割ヲ上納セシムベキデアアル

力、又ハ一部ノ方面デハ、斯様ナ利益ノ九割五分マデヲモ徴收スベキデアルトマデノ提議ヲ持チ込ムモノサヘアルトイフガ、然シ、此後、是レ以上ノ増税ヲ斷行スルト、如何ナ英吉利デモ、戰時殊ニ戰後ニ於ケル經濟界又ハ企業界ヲシテ、遂ニ大ニ畏縮セシムルニ至ル虞レナカラウカ。現在デモ、政府ノ督勵ニ應ジテ、盛ニ軍需品ヲ製造セム爲メニ、戰前ニ比シテ、一時ニ規模ヲ擴張スルニ至ツタ各種ノ大工業ニ於テハ、之ガ爲メニ、大ナル利益ヲ見ツ、アルト同時ニ、又常ニ大ナル責任ト大ナル危險トヲ負ヒツ、アルモノデアアル。又戰後ニハ是等ノ事業家ナリ、大商人ナリハ、敵國ノ同業者、殊ニ此戰爭中莫大ナル利益ヲ占メ、而モ何等新ナル課税ヲ被ラナイ爲メニ、著シク其ノ資本力ヲ激増シ得タトコロノ諸中立國ノ事業家ナリ又ハ大商人ト、大ニ競争セテバナラヌ境遇ニアルモノデアアル。斯様ナ次第デアツテ見レバ、此上尙ホ無暗ニ各種ノ所得税ナドヲ増徴スルコトハ、戰時戰後ヲ通ジテノ英吉利ノ大局ノ利害カラ判斷シテ、如何ナモノデアラウカトイフ懸念ガ起ラザルヲ得ナイ。

今回超過利益税ガ、超過利益ノ五割カラ六割ニ引上ゲラレタニ就テ、ゼツニングスハ左ノ如キ批評ヲ下シテ居ル。

This extra 10 per cent. is fully justified. It may be fairly accepted as abasic principle that no one has a right to make exceptional profits out of a war upon which his future existence as a

manufacturer, trader, or agent depends. (H. J. Jennings, The Nation's Balance Sheet, *Fortnightly Review*, May, 1916, P. 902).

ガ然シ、此ノ先キ、超過利益税ガ八割ニナリ、九割ニナツテモ、是レト同ジャウナ批評ヲ下シ得ルデアラウカ。ソレハ大分ニ疑問ダト謂ハチバナラヌ。

一〇

サルニテモ、此上尙ホ此戦争ガ永ク續クト、更ニ莫大ナル戦費ヲ要スルコトニナル。ソレヲ調達スルニ就テ「我ガ英國デハ、利子ノ支拂ヤ、減債基金ヲ適當ニ補充シ得ル丈ケニ充分ナル租税收入ノ増加ヲ計ラズシテハ、一磅タリトモ、借金公債ヲ募集スルコトヲシナイ」前出、藏相マツケナーノ言トイフ方針ヲ改メナイ限り、更ニ増税計畫ヲ立テチバナラヌ時期ガ到來スルノデアアル。ソコデ、ソノ曉ニハ、他ニ又新税増税ヲ起スニシテモ、ソレハ何レモ收入ノ見込ノ僅少ナルモノ許リデアアルコト、是レマデノ例ニ徴シテ明カデアアルカラ、大部分ハヤハリ前記三種ノ所得税ノ増徴ニヨツテ、補充スル外ナイ之ハ過去ニ於テ然リ、現在ニ於テ然リ、恐クハ將來モ亦然リデアラウト思ハル、果シテ然リトスレバ、財力ヲ唯一ノ頼ミトシテ戦ヒツ、アル英吉利——金力ニ依ル持久戦デ以テ最後ノ勝利ヲ狙ヒツ、アル英吉利ノ前途モ、必ズシモ大ナル樂觀ヲ許サヌモノダトイフコトニナル。

一一一

加之、今ヤ、英吉利ハ自國ノ戰費ノミナラズ、與國ノ戰費ヲモ少カラズ負擔セテ、
ナラヌ境遇ニアルモノデアル。露西亞デモ、白耳義デモ、セルビヤデモ、將又英吉利ノ
諸殖民地デモ、英吉利ノ財的援助ナクシテハ、到底此戰ヲ續ケテ行ケヌモノデアル、
佛蘭西ヤ、伊太利サヘモ、既ニ英吉利ノ財力ニ依頼スルトコロ少カラザル位デアル。
本年末ニハ、是等ノ與國ニ對スル融通ガ、無慮八億磅ニ達スルトイフ計算デアルガ、
本年度以後ハ益々此種ノ負擔ヲ増加スル一方デアラウ。ソコデ、今日マデニ、既ニ英
吉利ハ此戰爭ノ爲メニ約三十億磅ノ公債ノ募集ト、約三億磅ノ租稅ノ増徴ヲ敢テ
シタノデアアル。此ノ驚クベキ公債ノ募集ト、此ノ驚クベキ租稅ノ増徴ヲ考ヘルト、英
吉利ハ、單ニ其ノ絶大ナル海軍ト、勇敢ナル陸軍トノミヲ以テ、戰ヒツ、アルモノデ
ハナイ。又同時ニ、英吉利國民ノ全財力ト全生産力トヲ以テ、戰ヒツ、アルモノデア
ル。前同トイフノハ、單ニ此大戰ニ際スル英吉利ノ國情ヲ明カニシタ言葉デアアル丈ケ
デナク、同時ニ、此大戰ニ際スル英吉利ノ立場ヲモ明カニシタ至言デアルト思フ。今
回ノ戰爭ガ、其ノ實、英吉利ト獨逸トノ戰爭デアルトイフ意味ノ一部モ、正シク茲ニ
存スルノデアアルガ、ソレ丈ケニ、英吉利ノ戰時財政ノ成行トイフコトガ、大ニ注目ス
ベク、又大ニ研究スベキ現下ノ大問題デモアルノデアアル。(大正五年六月二十八日稿)